

令和元年度 第2回環境水理部会 議事録

日時：2019年11月5日（火）13:00-14:00

場所：大宮ソニックシティ 会議室 705

出席者：部会長：矢野（九州大） | 副部会長：竹林（京都大） | 幹事：大槻（土研・共生 C），新谷（首都大） | 委員：赤松（山口大），石塚（香川大），乾（福岡工大），入江（大阪大），梅田（東北大），大石（寒地土研），片岡（東京理大），川村（寒地土研），工藤（いであ），齋田（鹿児島大），櫻井（ダム技術センター），重枝（九工大），清水（日本工営），鈴木（八千代エンジニアリング），田井（九州大），田代（名古屋大），都築（リバフロ），鶴田（建設技研），中西（土研），中山（神戸大），東（国環研），細川（港空研），牧野（東北大），横山（首都大），吉川（北見工大）（出席者下線） | オブザーバー：赤堀（愛知工大），巖島（東工大），土屋（中央大），鶴田（土研）（代理，溝口），古里（鹿児島大），松尾（中電技術コン），三輪（鳥取大），矢島（島根大）（計 31 名. 敬称略.）

1. 部会長の挨拶（矢野部会長）
2. 水工学委員会の報告（矢野部会長，資料配布あり）

<報告事項>

- (1) 今年度の水工学論文集について：315 編の投稿があり，採択数は 247 編，採択率は 78.4%であった。昨年（採択率 8 割程度）に比べると若干下がったようであるが，例年並みの採択率であった。
- (2) 講演会での発表スライドについて：英語で表記することが推奨されているが，実際には日本語・英語の両方が使われている。統一すべきとの議論がなされているが結論は出なかった。
- (3) 水工学論文集の CD について：CD が送られてくるタイミングが学会直前のため，出張先から直接学会に来る際など受け取ることができない。海岸工学論文集(J-Stage)のように，当日に Web で閲覧できるようなシステムを導入すべきとの案が出た。ただ，J-Stage は論文 ID を持っていないと最新号は閲覧できないため，一時パスワードなどで対応すべきではないかとの意見があった。

- (4) 水シンポジウムについて：2019 年度の水シンポジウムは滋賀で開催された。開催地の負担が大きいようで毎年開催地の決定が難しくなっている。2020 年度は群馬開催を予定しており、水文部会が担当する。2020 年度は、東京オリンピック・パラリンピックが同時期（8 月）に開催されるため、例年から開催時期を変更し、11 月 12 日シンポジウム、13 日現地見学会とする予定である。
- (5) 来年度の水工学講演会について：2020 年 11 月 4-6 日の日程で富山において行われる。事前情報として宿泊施設は充実している模様である。
- (6) 水工学に関する夏期研修会の報告
2019 年度の「水工学に関する夏期研修会」は名古屋工業大学で開催された。来年度は 8 月 27、28 日の 2 日間で高知において開催される。研修会のテーマは今後発表される。

<協議事項>

- (1) 予算配分について：土木学会水工学委員会から各部会へ配分されている予算は 15 万円ある。当部会では既に研究集会も終わっているため、各 WG で利用することが可能である。利用する場合はメールなどで部会長に連絡し、実際の支払いは建て替えて、後に送金という形をとることもできる。

3. 研究集会について（大槻幹事、資料配布あり）

開催幹事の梅田先生より本年度の青森における研究集会の開催報告があった。

大槻幹事から、次年度研究集会について 2 つの素案が提示された。一つは、久慈川と那珂川周辺の伝統的治水システムの見学で、伝統的治水システムである霞堤や水害防備林が多く残っているのを見ることができる。もう一方は、伊勢湾台風から 60 年経った伊勢湾周辺（中部地方）の治水システムおよび氾濫原環境の見学であり、輪中などの水害対策や河道内や背後地に残された氾濫原環境も視察することができる。二つの案に対して挙手による採決が行われ、久慈川案が次年度の研究集会開催地に決定した。ただし、被災復旧等の事由により中部地方に変更することもありうる。開催日程等は後日連絡を行う。

4. ワーキング報告（資料配布あり）

- (1) 流砂・植生動的マネージメント WG：当日欠席した主査の竹林副部会長からの伝言を部会長が紹介した。「2018 年度は四万十川・仁淀川において見学会を開催した。今年度も現地見学会（鳥取）を予定している。また、実現可能性の高い植生管理方法に関するワークショップを開催したい。」との報告があった。
- (2) 温暖化適応 WG：主査の入江委員より報告があった。「水工学講演会の前日に第 6

回目の WG を東京大学で行った。田井委員（九州大）と東京大学渡部先生に研究紹介をしていただき d4PDF の活用方法、特にバイアス補正・ダウンスケーリング方法に関してご説明いただいた。WG 外の方々にも積極的に適用 WG に参加していただきたい。次回の WG は研究集会前後に行う予定である。」との報告があった。

(3) 閉鎖性水域 WG：主査の新谷幹事から今後の活動方針の説明があった。「閉鎖性水域（湖沼・貯水池）に関連する水工学論文のレビューと閉鎖性水域の長期・広域水温分布調査の 2 つのサブ WG を立ち上げる予定である。閉鎖性水域 WG 及びサブ WG のメンバーは随時募集中である。」との報告があった。

(4) その他；矢野部会長より、新しい WG の立ち上げを推奨するので、アイデアをお持ちの方は準備をしていただき、部会で提案もしくはメールで立ち上げを相談して欲しい、との依頼があった。

5. その他

(1) 新任委員，新規オブザーバー：今年度新任委員の乾委員（福岡工業大），入江委員（大阪大），片岡委員（東京理科大），東委員（国環研），清水委員（日本工営），牧野委員（東北大），中西委員（土研），オブザーバーとなった巖島先生（東工大），松尾様（中電技術），三輪先生（鳥取大），古里先生（鹿児島大）より自己紹介があった。

以上